

令和3年3月19日

# 本高図書委員会だより

1年担当

第06号

## 呪術廻戦

### 1年図書委員 Mさんおすすめ

これは、呪霊と呼ばれる具現化した呪いと呪術師たちとの戦いが描かれています。その呪いの中でも『呪いの王』と言われているのが両面宿儺です。両面宿儺は強すぎるため20本の指に分割して封印されていましたが、あるきっかけでその封印が解かれてしまいます。両面宿儺の呪いを再び封印するため、人を助ける道を選んだ主人公の虎杖悠仁は呪いを祓う呪術を学ぶため東京都立呪術高等専門学校に転入します。そんな虎杖悠仁の呪術師としての物語です。ほかの登場人物もとてもかっこいいので、ぜひアニメや漫画で見てみて下さい。

## HUNTER×HUNTER

### 1年図書委員 F君イチオシ

主人公のゴン＝フリークスが父親のジンに会うため、父親の職業であったハンターになり、仲間との絆を深めながら成長する物語です。「念」という能力を使い、様々な困難に立ち向かいます。作者の冨樫義博さんは「幽☆遊☆白書」の作者でもあります。現在は2018年11月26日から休載が続いていますが、32巻あたりまでアニメ化されているので、アニメを見るのもおすすめです。Youtubeには考察動画や、伏線についての動画がたくさんあるので、マンガを読みながら見るのもおすすめです。

## ミッキーマウスクロニクル90年史

### 3年Nさんからメッセージ

あなたは、ミッキーマウスのどの顔が好きですか？この質問に疑問を持たれた方がいるかもしれません。今年で93周年を迎える彼は幾多の変遷を経て、多様に変化してきました。最近でいえば、ディズニーリゾートのミッキー・ミニーの顔が生まれ変わったのもその1つかもしれませんね。しかしながら、彼のユーモアさや愛らしいキャラクター性は変わることはありません。どんな時代の人にも愛され続けています。彼が誕生しなければ、きっとその後のディズニー名作も誕生しなかったでしょう。だからこそ、あなたに決して忘れて欲しくないことがあります。

「すべては1匹のネズミから始まったということ。」  
誰もがその名を一度は聞いたことのある“ミッキーマウス”。そんな彼の歴史をあなたも知ってみてはいかがでしょうか？

## 赤毛のアン

### 2年Yさんのおすすめ

孤児のアンはちょっとした手違いから、独身のマリラとその兄マシューに養子として迎えられ、カナダのプリンス・エドワード島のアヴォンリーという小さな村で健やかに成長していきます。アンの人を惹きつける微笑や性格は、関わる人すべての人々に幸福をもたらします。個性豊かな登場人物や世界一美しい場所と呼ばれる島の情景描写も見どころです。アンと村の人々の愛で溢れる物語です。

私は大学で英米文学を学びたいと思っています。受験勉強に対するモチベーションを高く保ちたい、また語彙力を高めて自分の思いや考えを上手に表現できるようにになりたいという思いから、大好きな赤毛のアンシリーズ本を読んでいます。キリスト教の教えによる登場人物のポジティブな考え方は私たちを元気に楽しい気分にしてくれますし、これが英米文学の良さだと思っています。

みなさんも赤毛のアンを読んで幸せな気分を味わってほしいと思います。ぜひ読んでみてください！！

今号は、1年図書委員Nさんのオススメを、計3人視点で一挙紹介！！！！

ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー プレイティみかこ著

## 1年図書委員Nさんおすすめ

この本はアイルランド人の父と日本人の母を持つ中学生の息子の話。根深い差別問題が存在するイギリスの底辺中学校生活を切り取った躍動感あふれるノンフィクションです。

多様性を学べ、他人事では終わらせられない沢山の問題についてよく考えさせられる本だと思います。

差別の実状や子供の戦う姿を読みたい人におすすめです。

“一生ものの課題図書”この本のキャッチコピーです。きっとそうなるでしょう。

## 1年Sさんからメッセージ！！

この本には沢山の登場人物が存在し、一人一人がみんな違います。その違いは決して人種に限られたものではありません。価値観や生活環境、貧富など様々です。その違いはあらゆる「差別」を生みます。それは私達の生活にも該当すると思います。

特に心に残ったのが、とある生徒が、自分の問題を面白くラップにしている場面です。とても汚い言葉を使い、その場の雰囲気には適しているとは言えないものでしたが、見ていた先生達はとても誇らしげにしていました。先生達のどんなことでも受け止めてくれそうな包容力や、生徒が自分の事を堂々とさらけ出せる態度に感銘を受けたし、とても共感できる部分がありました。この本は身の回りにある差別と向き合うきっかけになるとと思います。

## 大澤圭太先生より！！！！

イギリス・ブライトン、ハーフの少年が通う元底辺中学校は、毎日が「事件」の連続。アイデンティティを模索しながら多文化共生を学んでいく少年の日常が母親目線で綴られるエッセイ。

人種差別思想のクラスメイトと、演劇会を通して喧嘩しながらも友達になっていたり、制服が買えない友達に「友達だからあげるんだよ」ってさりげなくリサイクル制服をあげたり、サッカー少年が自身のジェンダーに悩んだり、水泳大会では私立校の待遇に貧富の差を目の当たりにしたり…。

個人的には、少年が日本の祖父と過ごす場面、言葉が通じなくても心は通じていて、2人で遊びに出かけたりするエピソードが微笑ましかった。異文化交流の原点を見たような気がして。留学したい人、異文化コミュニケーションに興味ある人、ダイバーシティを生き抜くすべての高校生、必読！

Fのつぶやき

一年って早い。

Mのつぶやき

球技大会優勝！！

Nのつぶやき

クラス替え楽しみですよ！！！！